

環境報告書 2026

Kobe University
Environmental Report 2026

ダイジェスト版



神戸大学

学長メッセージ



藤澤 正人 学長

2005年4月 神戸大学大学院医学系研究科教授

2014年2月 神戸大学医学部附属病院院長

2018年2月 神戸大学学長補佐

2019年4月 神戸大学大学院医学研究科長、医学部長

2021年4月 神戸大学学長

現在、私たちの暮らしにおいて、気候変動や自然災害、感染症、紛争といった地域社会から地球規模に及ぶ課題が、甚大な影響を及ぼしています。さらに、急速な都市化や少子高齢化など、新たに顕在化した課題も少なくありません。こうした課題が山積する中、国際社会が協調して取り組む必要性がかつてなく高まっています。

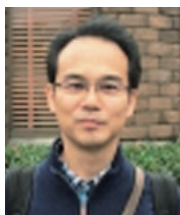
なかでも、地球温暖化をはじめとする環境問題は世界共通の喫緊の課題であり、カーボンニュートラル実現に向けた基盤技術の研究開発や制度設計が進められています。

本学では、これらの地球的課題に対し、伝統と特色を活かした文系・理系の枠にとらわれない先端的研究を推進してまいりました。新たな学術領域を開拓す

るとともに、課題解決を先導する人材を輩出すること、本学の重要な責務であると考えています。今後も2030年、そしてその先の「SDGs + beyond」社会を見据え、産業界や地域社会との連携による異分野共創研究の基盤を構築し、カーボンニュートラルに貢献する研究開発をさらに加速させてまいります。

最後に、学問の府としての自由な教育研究環境を堅持するとともに、基礎・応用科学における潜在力を結集して新たな成長基盤を創出し、地域・社会の課題解決とイノベーションの拠点としての機能を強化し、持続可能で地域に根ざし、世界に誇れる研究大学として発展していく所存です。引き続き、皆さまのご支援とご協力を心よりお願い申し上げます。

環境保全推進センター センター長メッセージ



中山 恵介 センター長

所 属：神戸大学環境保全推進センター センター長

神戸大学大学院工学研究科 市民工学専攻 教授

研究分野：社会基盤(土木・建築・防災)、水工学

研究キーワード：生態、水文、地球温暖化ガス、内部波、成層

学際的アプローチと地域共創で挑むカーボンニュートラルへの道

本学は、世界最高水準の研究教育拠点として「環境憲章」を掲げ、地球環境の保全と持続可能な社会の創造に向けて全学一丸となって取り組んでおります。近年の気候変動に伴う自然災害の激甚化や、地球規模での環境変化は、私たち水工学や社会基盤、環境科学に携わる研究者のみならず、人類共通の喫緊の課題であります。

環境保全推進センターでは、学内の環境マネジメントサイクル(PDCA)を着実に回し、エネルギーの見える化や高効率機器への更新、紙資源の3R活動、実験廃液の適正処理および化学物質の一元管理などを率先垂範して進めてまいりました。2025年度の実績においては、熱源や空調の高効率化、照明のLED化等の効果、および空調への外気温影響の少なさから、エネルギー使用量を前年度比4.4%削減という具体的な成果を達成することができました。

しかしながら、未来のカーボンニュートラル社会を実現するためには、単なる学内施設における省エネルギー化に留まらず、教育と研究、そして地域社会との「協働」が不可欠です。本学ではカーボンニュートラル推進本部のもと、「教育」「研究・社会共創」「キャンパス」の各部門が連携し、文理の枠を超えた体系的な環境教育プログラムの整備や、AIスマート空調技術の社会実装・リスクリング講座の開講など、グリーン

人材の育成と技術展開を強力に推進しております。こうした全学的な連携体制の強化の一環として、当センターが例年実施している全学報告会につきましては、2026年度よりカーボンニュートラル推進本部との共催として開催する運びとなりました。

私自身の研究分野におきましても、水圏環境における成層流動や内部波の挙動、それらが生態系に与える影響、さらには水文プロセスと地球温暖化ガスの放出機構の解明など、自然界のメカニズムを正しく把握することから環境対策へのアプローチを試みております。こうした水圏・環境科学の知見を基盤としつつ、法学・経済学分野と連携した「脱炭素社会の地域づくり」などの異分野共創、あるいは地域自治体や企業と結ぶ組織的な里山・里海保全活動は、大学の知を実社会へと還元する極めて重要な実践の場となっています。

本報告書は、学生や教職員、そして地域社会の皆さまとの環境コミュニケーションを促進し、共に行動を起こすための媒介となるものです。次世代を担う学生たちが主体的に環境問題へ向き合い、自発的な解決策を提示できるよう、当センターは今後も全学的な環境活動の核としてその役割を果たしていく所存です。皆さまの引き続きのご支援とご協力を心よりお願い申し上げます。

神戸大学では環境憲章(2006年9月26日制定)を定め、基本理念、基本方針に基づいてさまざまな環境保全活動を行い、本学が行っている環境・省エネへの取り組みなどを、環境報告書として毎年公表しています。

●基本理念

神戸大学は、世界最高水準の研究教育拠点として、大学における全ての活動を通じて現代の最重要課題である地球環境の保全と持続可能な社会の創造に全力で取り組みます。

私たちは、山と海に囲まれた地域環境を活かして環境意識の高い人材を育成するとともに、国際都市神戸から世界へ向けた学術的な情報発信を常に推進し、自らも環境保全に率先垂範することを通して、持続可能な社会という人類共通の目標を実現する道を築いていくことを約束します。

●基本方針

1. 環境意識の高い人材の育成と支援

大学の最大の使命は人材の育成にあります。私たちは、地球環境や地域環境への影響を常に意識して行動する人材を養成するために教育プログラムを絶えず改善し、人文・社会・自然科学の知見を統合して、環境に対して深い理解をもつ人間性豊かな人材を国際社会や地域社会と連携して育成することに努めます。

2. 地球環境を維持し創造するための研究の促進

地球環境を保全し、持続可能な社会を創造するためには、さまざまな課題を克服する研究成果の蓄積が必要です。私たちは、環境問題に関する個別分野の研究と関連分野を統合した学際的な研究の双方を推進し、その成果を世界と地域に向けて発信することに努めます。

また、このような研究成果を国際社会と地域社会の発展に具体的に結びつける活動を支援します。

3. 率先垂範としての環境保全活動の推進

地球環境を保全するためには、ひとりひとりの行動が大切です。私たちは、日々の活動を通じて、環境を守り、エネルギーや資源を有効に活用し、有害物質の管理を徹底することによって、環境に十分配慮したキャンパスライフを率先します。さらに、環境保全活動の情報を開示し、関係者とのコミュニケーションを通じて、継続的な改善に努めます。

環境に関する教育研究とトピックス

トピックス

完全版 P.10

環境報告書を利用した環境教育

2014年度からは環境学入門の講義の中で、環境報告書を題材にした授業が行われています。

環境学入門の開講

地球環境問題は、今や今世紀最大の世界的な課題の一つとなっています。前半の「環境学入門A」では主に理工学分野に関する内容、後半の「環境学入門B」では主に人文社会分野に関する内容を講義しています。



トピックス

完全版 P.12

生協学生委員会主催のフリーマーケットについて

経済学部 生協学生委員会 河元 峻

「ゴミや不用品を回収して、リユース・リサイクルによってゴミを減らす。」という企画目的と、「学生にリサイクルの重要性を再確認してもらい、環境に対する意識を向上させる。」という理念のもとに開催しました。



不用品回収時の様子

トピックス

完全版 P.11

神戸大学環境サークル「エコふる」の活動

安全衛生・環境管理統括室 環境企画コーディネーター 小野 孝志

1. 児童館へへの出前授業実施
2. オリジナルの「環境かるた」海洋プラスチックごみver.の制作
3. エシカル消費の促進に関する研究活動連携
4. 環境月間(6月)ポスター制作



教育

完全版 P.13

ジオ・エコパーク研修

附属中等教育学校 教諭 若杉 誠、岡本 潮、竹村 実成

毎年「ジオ・エコパーク研修」と称し、研修を行っています。ここでは、特異的な地質、その上に成立する生態系、そしてその中で形成されてきた人間文化や各種産業の様子について、その相互の連関に焦点を当てながら包括的に巡検します。



「弥陀ヶ原湿原巡検」

教育

完全版 P.14

サステナブル・ガストロノミーに根差した 環境配慮型食事設計に関する教育活動

人間発達環境学研究科 准教授 湯浅 正洋

サステナブル・ガストロノミーは、「持続可能な食文化」として、食糧生産から調理技術まで、いわゆるフードチェーンを包括的なターゲットとした環境配慮型アプローチです。

2025年度は、特に環境配慮型食事設計を学習する目的で、授業内ではエコクッキング、フードマイレージ、食品ロスに関する現状などを説明するとともに、未利用資源を食利用する新しい技術を紹介しました。



講義で使用しているスライドの一例

研究

完全版 P.18

持続可能な新規食資源・食用ゼニゴケの 実社会における用途開発

人間発達環境学研究科 准教授 湯浅 正洋

環境負荷軽減に貢献できる新しい食資源提案を目指した研究に取り組んでおり、未利用資源、すなわち人類における食経験のない動植物や、人間の生産活動によって生ずる副産物を、おいしくいただくことができる形に調理・加工する技術開発を行っています。ここでは、2025年度に取り組んだコケ植物に分類される「ゼニゴケ」に関する研究を紹介します。



ゼニゴケ会食料理の実食会の様子

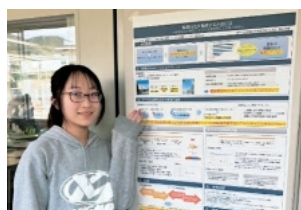
研究

完全版 P.15

Kobe プロジェクトにおける環境に関する研究

附属中等教育学校 14回生 関山 奈緒／14回生 谷川 文哉
指導教諭 高木 優

神戸大学附属中等教育学校では、総合的な探究(学習)の時間でKobe ポート・インテリジェンス・プロジェクト(Kobe プロジェクト)に取り組んでいます。3年生から6年生までの十数名で構成される講座「協同ゼミ」では、生徒同士のディスカッションを中心に研究を深めています。



関山の研究ポスター

教育／研究

完全版 P.19

西陣織による生分解性ポリエステルを用いた ジェンダーレス・エイジレスワンピースの開発

人間発達環境学研究科 准教授 上田 香

本研究では、京都・西陣織の高度な織技術と、環境に配慮した新しい素材、デジタル設計技術を組み合わせ、ジェンダーレス・エイジレスなワンピースの開発に取り組んでいます。本研究では、身体や年齢、性別を限定しないこと、そして廃棄時の環境負荷をできるだけ抑えることを目指し、次世代の衣服のあり方を探っています。



Fashion Show : Oh! NeoNeo

研究

完全版 P.16

環境保護に関する国際法の教育と研究

法学研究科 准教授 平野 実晴

国際社会では、国と国との関係を調整しながら課題に対処するため、国際法の発展は常に遅れ気味です。それでも、パリ協定やSDGsといった国際的な枠組みが構築され、「国際環境法」と呼ばれる法分野も知られるようになりました。もちろん環境問題に取り組むことも重要なのですが、環境保護と向き合うことで、翻って法や社会の在り方についても考えさせられる場面も少なからずあります。ここに、法学研究としての醍醐味があると感じています。



ポスター発表会の風景

その他

完全版 P.20

ワークショップ「電力データから読み解く 省エネへの第一歩」の開催

工学研究科 准教授 竹林 英樹

神戸市環境局脱炭素推進課、神戸商工会議所と連携してワークショップ「電力データから読み解く省エネへの第一歩」を開催しました。神戸市が2024年9月に採択された環境省「脱炭素先行地域」の取組の一環として、同地域内の企業などの施設管理者の皆様と共に、自社の電力データの傾向把握や省エネ方法を検討しました。



「ワークショップで議論している様子」

研究

完全版 P.17

未利用資源食利用の研究開発とその社会発信

人間発達環境学研究科 准教授 湯浅 正洋

2025年度は、シンポジウム・セミナー・産学交流会などで未利用資源の食利用事例を解説しました。未利用資源(食品の廃棄部位や人類に食経験のない動植物)がこれまで人類にとって食品たりえなかった理由は、これらが食べられる性状ではなく、おいしくないためであると考えられています。当研究室では、この未利用資源をおいしく食べられる性状にするための、調理技術開発に取り組んでいることを紹介しました。



講演の様子

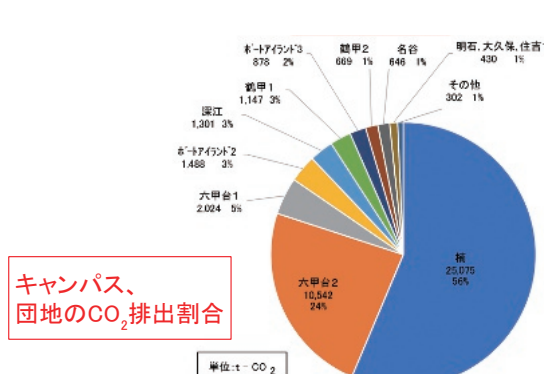
環境報告書の作成に当たって

この環境報告書は、大学の2025年4月から2026年3月までの1年間の環境に関する活動の成果を取りまとめ、「神戸大学環境報告書2026」として公表するものです。

大学の環境報告書は、主に大学の構成員である学生および教職員を対象とし、学内および学外の環境コミュニケーションを促進することを目的とし、大学で行った教育、研究およびトピックスを紹介するとともに、環境パフォーマンスとして、環境マネジメントを推進するための取り組み等を掲載しています。

参考にしたガイドライン

「環境報告ガイドライン2018年版」(2018年6月環境省公表)
「環境報告のための解説書～環境報告ガイドライン2018年版対応～」
(2019年3月環境省公表)



省エネルギー・温暖化防止

■エネルギー使用量

2025年度に使用した電気、ガスのエネルギーは、約74.1万GJとなりました。エネルギー使用量は2024年度と比較して4.4%減少、エネルギー使用量を建物延床面積で割った単位面積当たりのエネルギー使用量（原単位）についても、2024年度と比較して3.8%減少しました。

2024年度と比較して2025年度が減少した要因としては、熱源や空調を高効率機器に更新したことや、照明LED化のほか、空調への外気温の影響が全体的に少なかったことから、減少したと考えています。

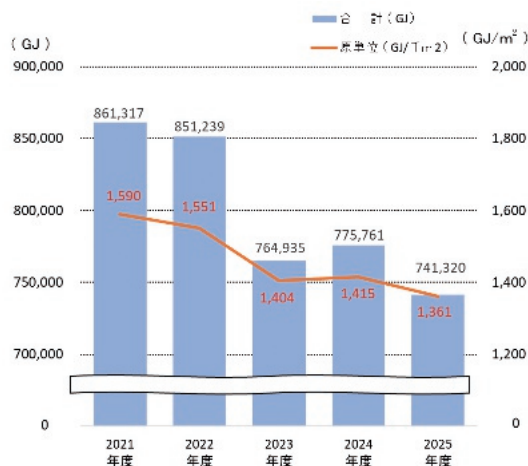


図1 エネルギー使用量

2024年度 1,415 GJ/㎡ **3.8%減少** → 2025年度 1,361 GJ/㎡

■CO₂排出量

2025年度の延床面積当たりのCO₂排出量(44,505t-CO₂)は、前年度比で26.2%増加しました。この要因としては、本学のエネルギー使用量の約84%を占める電気使用量において、主たる電気の供給業者のCO₂排出係数(電気供給1kWhあたりのCO₂排出量を示す数値)が約1.37(0.000394→0.000541t-CO₂/kWh)になったことなどが影響しているものと推測しています。

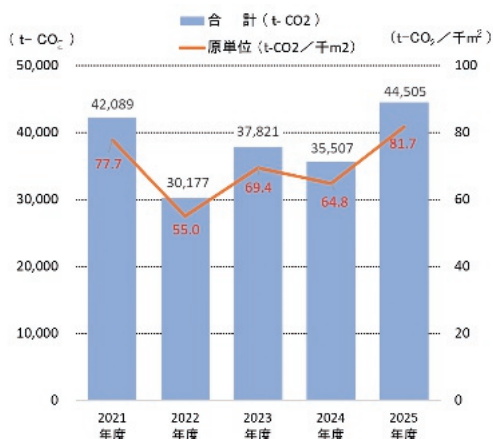


図2 CO₂排出量

2024年度 64.8 t-CO₂/㎡ **26.2%増加** → 2025年度 81.7 t-CO₂/㎡

■電気使用量

2025年度電気使用量は、原単位で前年度比の増減がありませんでした。六甲台地区の空調改修(ガス式から電気式)により増加するものと想定していましたが、改修工事による空調の高効率化や照明LED化のほか、空調への外気温の影響が全体的に少なかったものと考えています。

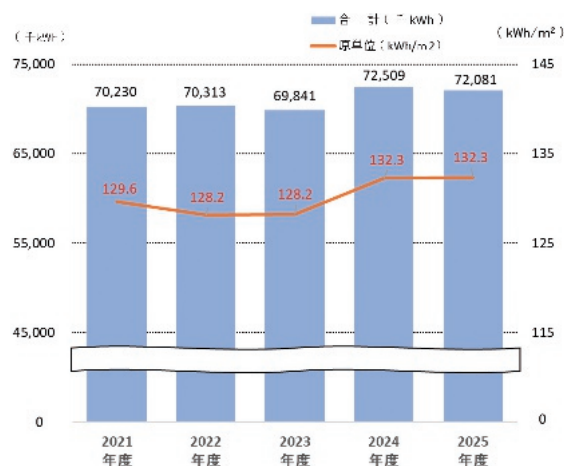


図3 電気使用量

2024年度 132.3 kWh/㎡ **0.0%増減なし** → 2025年度 132.3 kWh/㎡

■都市ガス使用量

2025年度都市ガス使用量は、原単位で前年度比21.0%の減少となりました。楠地区の熱源改修(ガス式から電気式)および六甲台地区の空調改修(ガス式から電気式)により、大幅に減少したと考えています。

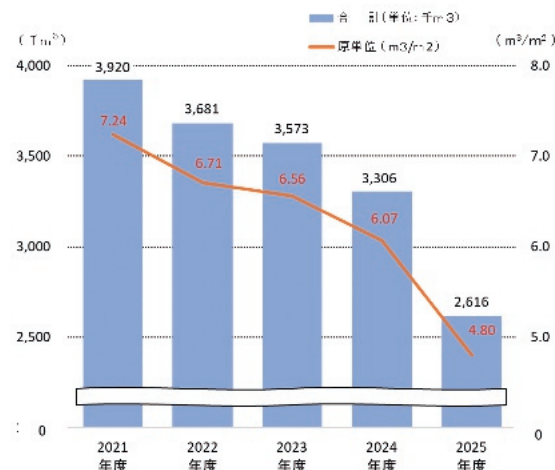


図4 ガス使用量

2024年度 6.07 m³/㎡ **21.0%減少** → 2025年度 4.80 m³/㎡

省資源・リサイクル

■水の使用量

2025年度の水の使用量は、前年度より2,020m³(0.5%)減少しました。

六甲台地区では、六甲山の河川水をトイレの洗浄水や実験用水等の雑用水に利用して、省資源化を図っています。

今後も引き続き水資源の有効利用に努めます。

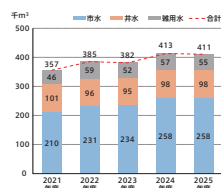


図5 水使用量

■廃棄物

2021～2025年度の一般廃棄物排出量について図6に示します。2025年度の廃棄量は1,080.2tで、2024年度より3.6%増加しました。また、2025年度の資源化率は28.6%となり、2024年度より1.6%増加しました。

2025年度の廃棄物種別資源化率を図7に示します。この図により、OA紙、新聞、雑誌、段ボールの資源化率が進んでいないことがわかります。これら雑紙類を90%資源化できれば、廃棄物全体の資源化率は28.6%から40.9%(2025年度排出量で算出)になります。神戸大学では、環境マネジメントを推進するための基本方針に従い、今後も更なる資源化率向上に努めます。

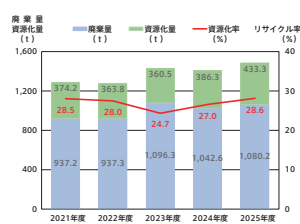


図6 一般廃棄物排出量

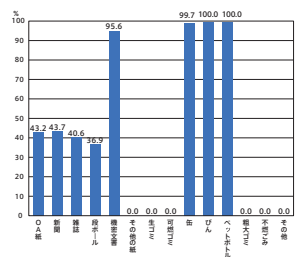


図7 2025年度 廃棄物種別資源化率

■全学の事務用紙類の使用量

2021年度から2025年度までの事務用紙類に関する使用量推移を、図8に示しました。2025年度は前年度比で、2.0%(2.84t)減少しました。引き続き、ペーパレス化、両面印刷、集約印刷および使用済みコピー用紙の裏側使用の普及を図り、削減に努めます。

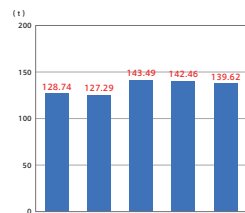


図8 全学用紙使用量

■特定施設届出管理の強化

水質汚濁防止法に基づく特定施設は、主として実験研究に用いる洗浄し台やドラフトチャンバー、病院では厨房・洗浄・入浴施設等が該当します。特定施設に係る法律は、水質汚濁防止法以外にも下水道法、土壤汚染対策法その他、関連法規が多数あります。学内には約2,000の特定施設（洗浄施設）があり、新設・設備更新・場所移動・用途変更・廃止ごとに、事前事後の法律に基づく行政への届出が必要です。届出書類の記載内容は多く、かつ相互に関連しており、該当法律知識に加え、化学物質の管理知識、設備・施設の設置状況・稼働状況等に関する知識、土地・建屋の状況・履歴等多岐に渡ります。例えば、新設の場合には設置60日前までに行政に受領していただく必要があります。

以上のような状況のため、届出書類の作成は大変煩雑なものとなります。そこで、特定施設の手続きを効率的に実施するため、特定施設の窓口を設け特定施設を全て一元管理しています。管理においては、設置又は撤去等の届出依頼を受けた時点で整理番号を付与し、部局とのメールやり取りや管理フォルダの名称に整理番号を使用しています。この対応に加え、特定施設の届出管理を抜け漏れなく確実にを行うため、毎月、関係者が集まり情報共有と進捗確認を行うことにしています。

グリーン購入・調達状況および環境配慮契約の状況

■グリーン購入・調達の状況

2001年4月から「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（グリーン購入法）」が施行されました。この法律は、国等による環境物品等の調達の推進、情報の提供その他環境物品等への需要転換を促進するために必要な事項を定め、環境への負荷の少ない持続的発展が可能な社会の構築を図り、現在および将来の国民の健康と文化的な生活の確保に寄与することを目的に成立し、国等の機関が率先して環境に優しい物品などを積極的に購入していくことを定めたものです。

また、この法律に基づき、神戸大学では毎年度、環境物品等の調達に関する方針を作成し、この方針に基づいた物品等の調達を行い、その実績を公表し、環境省と文部科学省に報告しています。

神戸大学では22分野288品目について、調達実績を調査し、そのうち主な8分野についての調達実績を表11に示しています。これらの分野において2025年度は特定調達品目調達率100%を達成しました。

引き続きグリーン購入法に基づいた調達方針を作成し、環境に優しい物品などの調達を積極的に行います。

表11 2025年度グリーン購入・調達の実績状況

分野	品目	総調達量	特定調達品目調達率
紙類	コピー用紙	139,273kg	100%
	トイレットペーパー	49,525kg	100%
	その他	1,455kg	100%
	ボールペン	2,401本	100%
文具類	封筒(紙製)	200,128枚	100%
	その他	52,977個	100%
オフィス家具等	いす、机等	3,519台	100%
OA機器	コピー機、プリンタ等	4,199台	100%
インテリア類	カーテン	223枚	100%
作業手袋		4,161組	100%
その他繊維製品	ブルーシート	48点	100%
役務	印刷	464件	100%
平均			100%

■環境配慮契約の状況

国等における温室効果ガス等の排出の削減に配慮した契約の推進に関する法律（以下環境配慮契約法とする）により、「電力の調達」「自動車の購入および賃貸」「船舶の調達」「建築物の設計」「建築物の維持管理」「省エネルギー改修事業（ESCO事業）」「ESCO以外の省エネルギー改修事業」「産業廃棄物の処理」の8つに関する契約について、温室効果ガス等の削減に配慮した契約の推進を図るよう努めなければなりません。

神戸大学では2025年度に行った建築物の建築・改修の設計業務の調達において、設計業務の特性を考慮した効果的な環境負荷低減に配慮した提案を行うことを求めたうえで契約を行い、温室効果ガス等の削減を図りました。

六甲台地区、楠地区、深江地区等8件の「電気 の 供給」に関する高圧・特別高圧の環境配慮契約は2024～2025年度の2年契約で、表のように行なっています。

表12 地区ごとにおける電気 の 供給状況

	契約電力	予定使用電力量	落札者
六甲台地区	6,870kW	22,857,000kWh/年	株式会社U-POWER
鶴甲第2キャンパス (人間発達環境学研究所)	700kW	1,314,000kWh/年	株式会社U-POWER
深江地区 (海事科学研究所)	842kW	2,162,000kWh/年	株式会社U-POWER
名谷地区 (保健学研究所)	413kW	1,127,000kWh/年	株式会社U-POWER
ポートアイランド地区	統合研究拠点本館 249kW 統合研究拠点アネックス棟 355kW インキュベーションセンター 128kW	2,983,000kWh/年	株式会社U-POWER
その他の4地区	附属中等教育学校 316kW 附属小学校 162kW 附属特別支援学校 80kW 附属食資源教育研究センター 88kW	890,800kWh/年	株式会社U-POWER
楠地区	7,655kW	39,590,000kWh/年	株式会社U-POWER
医学部附属病院 国際がん医療・研究センター	680kW	2,140,100kWh/年	株式会社U-POWER

第三者意見

持続可能な社会を具現化していくためには、様々な学術分野や専門領域を横断した「知」の総合化に加え、社会変革を促進するための様々な仕組みのデザイン、そして多様なステークホルダーの参画による実践が重要となります。本報告書を通じて、神戸大学ではカーボンニュートラルをはじめとした社会目標の実現と環境問題の解決に向け、研究や教育活動を通じた多様な「知」の創出と、社会実践活動が積極的に進められていると認識しています。環境報告書や個々の研究活動が教育活動にも応用されていることも、大変重要な取り組みであると思います。また、企業や自治体などと連携したフィールドでの実践的な活動も、大学が社会と連携した実践活動として高く評価できます。とりわけ、洲本市と連携した里山・里海の保全や地域資源の利活用をめぐる社会連携活動は、大学と社会が連携・協働する有意義な事例だと思います。また、エネルギー消費量や各種の環境負荷に関わる環境パフォーマンスの計測と経年変化の傾向把握も着実に実施されていることが見て取れ、環境問題解決やカーボンニュートラル実現に向けた大学としてのコミットメントや意欲が明確に示されている報告書であると感じています。

私自身について述べさせていただくと、将来世代に持続可能な社会を引き継ぐための様々な社会の仕組みや社会システムをデザインし実践する「フューチャー・デザイン」を専門としています。気候変動や資源エネルギー問題などの地球環境問題は、世代を跨ぐ長期的課題です。過去世代のアクションの結果が現在の地球環境の状態に繋がっており、また、現世代のアクションは将来世代の社会や地球環境の状態に影響を及ぼします。この意味において、地球環境問題はまさに世代が繋がった課題だと考えます。このことから、気候変動などの地球環境問題に対処する取り組みにおいては、未だ見ぬ将来世代に対する視点を意識的に持ち、研究・教育や実践活動を進めていくことが重要になってくると考えています。

上記も踏まえ、私見ではありますが、今後検討いただきたい件についても述べさせていただきたいと思います。まずは、将来世代までの時間軸を考慮した、長期的観点からの構想やビジョンの検討と実践が挙げられます。冒頭に述べましたように、神戸大学では、さまざまな研究や教育活動、そして産学官の連携によるフィールドでの活動が進められています。これらの個々の有意義な活動や、そこから生み出された知見を総合化し、相互連携や相乗効果を図っていくために、サステナビリティ実現に向けた、将来世代に繋がる長期的なビジョンや構想を検討していくことが有効ではないかと思います。このような目指すべき社会像やビジョンが示されることによって、個々の活動の意義や有効性が具体化するとともに、改善すべき点や、これから必要となる研究や教育、社会実践活動がさらに明確化されると考えます。また、これらのビジョンや、大学が今後取り組むべき施策・活

動を検討する主体としては、研究者だけではなく、学生や職員などの関係者も含まれることが望ましいと考えます。多様な主体の連携・協働による作業は、大学全体として今後の環境活動に向けた大きな駆動力にもなると考えます。

もう一つの重要な点として、環境パフォーマンスを長期的観点で計測・活用していくスタンス、が挙げられると思います。さまざまな環境指標を毎年計測し、改善や悪化を評価していくことは極めて重要ですが、ともすると前年との比較など、短期的傾向の分析がハイライトされてしまい、より長期的観点からのトレンドの把握や、中長期的目標に向けた変革（あるいはトランジション）の方向性が見失われがちです。長期的な目標の実現に向けて、現状評価と今後の計画や戦略策定のための重要な情報としてこれらを位置付けることによって、神戸大学で着実にこれまで進められてきた環境パフォーマンス指標の計測結果と分析は、さらに重要な意義や価値を持ちうると考えます。

報告書に記載されている様々な活動を基盤としながら、持続可能な社会の実現に向けた大学としての体系的な取り組みが、今後さらに発展していくことを期待しております。



氏名 原 圭史郎
現職 大阪大学
大学院工学研究科
教授

経歴

- 2004年 4月 (公財) 地球環境戦略研究機関 (IGES) 研究員
- 2006年 8月 大阪大学サステナビリティ・サイエンス研究機構 特任助手
- 2016年 4月 大阪大学大学院工学研究科准教授
- 2019年10月 大阪大学大学院工学研究科教授

受賞歴

- 2014年 大阪大学総長奨励賞 (研究部門)
- 2017年 環境科学会富士電機賞 (優秀研究企画賞)
- 2024年 大阪大学賞
- 2025年 研究・イノベーション学会論文賞

研究分野

フューチャー・デザイン、サステナビリティ・サイエンス

所属学会

環境科学会、エネルギー・資源学会、研究・イノベーション学会など

表紙の解説

この表紙を作成するにあたり、大学構成員の大半を占める学生の皆さんに、環境報告書をより広く知ってもらえるように、大学・大学院の学生や附属学校の生徒などを対象に、表紙の写真・イラストを募集しました。写真の選考は環境企画・評価専門委員会で行われ、下記の作品を最優秀賞として表紙に採用することとしました。

また、その他の多くの応募作品の中から、優秀賞として2作品を選出させていただきましたので、併せて紹介します。ご応募いただいた皆様、ありがとうございました。この場をお借りして御礼申し上げます。

最優秀賞(表紙写真・イラスト)

神戸大学農学部
食料環境システム学科1年
森重 孝太さんの作品
撮影場所：六甲台第1キャンパス
国際協力研究科棟前
【撮影のコメント】
一本一本の木々が力強く生育していることが伝わる写真です。



優秀賞(表紙写真・イラスト)

神戸大学農学研究科1年
押野 千紗さんの作品
撮影場所：文学部



神戸大学国際協力研究科
NAM SEUNGHEEさんの作品
撮影場所：六甲台第1
キャンパス
出光佐三記念
六甲台講堂



発行日
作成部署
お問い合わせ先

2026年9月
環境保全推進センター
神戸大学施設部設備課環境管理グループ
〒657-8501 兵庫県神戸市灘区六甲台町1-1 TEL 078-803-6654
E-mail shis-kankyo@office.kobe-u.ac.jp
URL <https://www.kobe-u.ac.jp/report/environmental/2026/>

